

(2) 職員の退職

令和元年度中退職者 21名（定年3名、自己都合18名） *定年退職者3名のうち、2名は正規職員として再雇用、もう1名も契約職員として雇用継続。

(3) 職員の処遇改善

2号給アップと勤務評価加算による定期昇給に加え、10月に創設された特定処遇改善加算を財源として、支援現場でリーダーシップを発揮する役職者や社会福祉士等の有資格者に重点を置いた手当の改善を行いました。

(4) 職員研修の充実

- ア. 新規採用職員研修（8名）とフォローアップ研修（8名）の実施
- イ. 知的障害を理解するための基礎講座（14名）
- ウ. 知的障害援助専門員養成通信教育の受講（10名）
- エ. 新任副主任研修の実施（7名）
- オ. 新任主任研修への参加（県社協、3名）
- カ. 新任管理職員研修への参加（県社協、1名）
- キ. 課題研修の実施（7チーム、27名）
- ク. 日本知的障害者福祉協会・愛知県知的障害者福祉協会主催等の研修に参加

4. 会議等の開催

事業報告・収支決算や事業計画・収支予算の審議及び理事長・業務執行理事の職務執行状況の報告等のため、理事会を6回、評議員会を3回開催しました。

(1) 理事会

開催日	議 題 等
1 5月27日	【議題】①平成30年度計算書類・事業報告(附属明細書含む)及び財産目録の承認、②定時評議員会の開催、③定款の変更、④令和元年度第1次収支補正予算、⑤キッチン高森分場・わかば分場建設に係る工事入札に関する事項、⑥なかぎりワークス冷房設備更新に係る工事入札に関する事項 【報告事項】理事長及び業務執行理事の職務の執行状況
2 6月12日	【議題】①理事長の選定、②業務執行理事の選定、③苦情処理第三者委員の選任、④キッチン高森分場・わかば分場建設に係る工事入札に関する事項
3 7月2日	【議題】①キッチン高森分場・わかば分場建設に係る工事請負契約の締結 ※決議の省略
4 9月25日	【議題】①福祉・介護職員等特定処遇改善加算への対応、②規程等の改正(職員就業規則、契約職員等就業規則、職員等服務規程、職員給与規程、経理規程、懲戒手続規程)、【報告事項】・職員の交通事故(加害)・なかぎりワークス冷房設備更新に係る工事入札の結果
5 11月11日	【議題】①廻間地区第4期工事、②高森台地区第3期工事、③令和元年度第2次収支補正予算、④令和元年度第2回評議員会の開催【報告事項】・理事長及び業務執行理事の職務の執行状況・中間監事監査の結果
6 3月10日	【議題】①定款の変更、②規程等の改正(組織規程、職員就業規則、契約職員等就業規則、職員給与規程、契約職員等給与内規)、③令和元年度第3次収支補正予算、④令和2年度事業計画及び収支予算、⑤廻間地区第4期工事に係る請負契約に関する事項、⑥廻間地区第4期工事に係る資金の借入れ、⑦令和2年度資金運用計画、⑧令和元年度第3回評議員会の開催、⑨幹部職員の人事異動【報告事項】・職員の懲戒処分・職員等の採用退職の状況・新型コロナウイルス感染症への対応・令和2年度監事監査計画

(2) 評議委員会

開催日		議題等
1	6月12日	【議題】①平成30年度計算書類及び財産目録の承認、②定款の変更、③令和元年度第1次収支補正予算、④役員の選任 【報告事項】・平成30年度事業報告・理事長及び業務執行理事の職務の執行状況
2	11月22日	【議題】①廻間地区第4期工事、②高森台地区第3期工事、③令和元年度第2次収支補正予算 【報告事項】・理事長及び業務執行理事の職務の執行状況・中間監事監査の結果・職員の交通事故(加害)・福祉・介護職員等特定処遇改善加算(特定加算)への対応
3	3月19日	【議題】①定款の変更、②令和元年度第3次収支補正予算、③令和2年度事業計画及び収支予算 【報告事項】・職員の懲戒処分・職員等の採用退職の状況・幹部職員の人事異動・新型コロナウイルス感染症への対応・令和2年度監事監査計画

(3) 監事監査

実施日	監査内容
5月15日	平成30年度決算監査
10月23日・25日・30日	各施設等の巡回業務監査

(4) 運営会議

運営会議を年8回開催し、各施設の現況を共有すると共に、経営改善・事業間調整・サービス向上など施設運営に関する重要事項を協議しました。

5. 苦情解決体制の整備

「社会福祉法人養楽福祉会福祉サービスに関する苦情解決規程」を定め、苦情解決のための体制を整えています。令和元年度においては、養和荘における洗濯物の取扱い及び医療機関受診の際の不適切駐車、なかぎりワークスにおける職員の運転マナー、利用者の叫び声及び利用者の公共交通機関(バス)乗車マナー、さいおワークスにおける利用者の騒音(大きな独り言)に関する苦情が計6件寄せられました。申出者へは、苦情解決責任者である施設長等から謝罪、事情説明をして納得いただくと共に、関係職員への指導や職員間での情報共有、利用者への丁寧な指導などにより再発防止に努めました。

6. サービス評価の実施

福祉サービスの質の向上を図るため、平成27年度から「福祉サービス第三者評価」を受審しており、令和元年度は、はさま、なかぎりワークス、わかばで実施しました。

7. 経営・労務管理の改善

平成28年度から公認会計士の助言・指導を受けながら、各種規程や資産管理の見直しなど経営・労務管理の改善に取り組んでおり、令和元年度は、前年度までに作成した業務手順書を実際に運用してその内容を検証すると共に、必要な見直しを行いました。

8. 防災・防犯対策の実施

防災対策としては、非常災害対策計画等に基づき、各施設等において随時避難訓練を実施した他、9月2日に法人全体で大規模地震・火災を想定した非常連絡訓練等を実施しました。

また、防犯対策としては、昨年度の春日井警察による防犯講習会を録画したDVDを利用して、各施設等において主に新規採用職員を対象に講習を実施しました。

9. 借入金返済

借入先	年度当初借入残高	借入額	償還額	年度末借入残高
福祉医療機構	908,875,000円	0円	59,784,000円	849,091,000円
瀬戸信用金庫	380,379,000円	0円	26,172,000円	354,207,000円
合計	1,289,254,000円	0円	85,956,000円	1,203,298,000円

10. 施設整備積立金

前年度末積立額	年度中積立額	年度中取崩額	年度末積立額
387,335,923円	33,000,000円	213,080,000円	207,255,923円
◎運用状況（令和2年3月31日） 東京電力社債（5年）50,000,000円、日産フィナンシャルサービス社債（5年）100,000,000円、三菱UFJ銀行普通預金 57,255,923円			

11. 新型コロナウイルス感染症への対応

各施設等とも感染予防対策を徹底しながら、ヘルパー派遣事業の一部を除き、通常どおりの営業を続けました。3月以降は、施設見学や保護者等の面会を控えていただくと共に、遠足、行楽等の外出は取りやめ、通所施設では、さらに保護者へ家庭での感染予防対策の徹底や通所前の検温、発熱時の利用中止等を依頼しました。

事業報告附属明細書（地域サポートセンター）

障害がある方の地域生活をサポートするために、共同生活援助事業、地域活動支援センター事業、居宅介護事業、移動支援事業、福祉有償運送事業を実施しました。

事業実績につきましては、以下のとおりです。

1. 共同生活援助事業（グループホーム）

グループホーム坂下・太陽・さいおの計3事業所9ホームに、王子（3ユニット）が新規に加わり、合計64名で事業展開してきました。これにより地域サポートセンターが管轄する事業所数も大幅に増えたため、利用者支援・現場世話人へのフォローアップを重層的に行えるよう、事務所を2か所（廻間事務所・王子事務所）に分け、きめ細かい支援を行ってきました。また、利用者の平均年齢については、GH王子の利用者が加入したことで、若干下がりましたが、高齢化・重度化等により、GH全体を通して、計4名の利用者の入退所がありました。利用者支援においては、全体外出・イルミネーション外出などを行うと共に、地域の行事にも積極的に参加するなど、利用者が楽しめるような行事を企画・実施しました。各GHの利用実績については、ほぼ例年通りの状況ですが、GH王子については、在宅利用者からの入居が多く、週末に外泊を希望する利用者が多かった為、利用率は他のGHと比較して低い結果となっています。

		令和元年度	平成30年度	前年度比
坂下	利用者数（定員数）	17名	17名	100.00%
	開所日数	366日	365日	100.27%
	延べ利用者数	5,771名	5,919名	97.49%
	1日平均利用者数	15.76名	16.21名	97.22%
	利用率	92.75%	95.39%	
太陽	利用者数（定員数）	12名	12名	100.00%
	開所日数	366日	365日	100.27%
	延べ利用者数	3,702名	3,343名	110.73%
	1日平均利用者数	10.11名	9.15名	110.49%
	利用率	84.28%	76.32%	
さいお	利用者数（定員数）	20名	20名	100.00%
	開所日数	366日	365日	100.27%
	延べ利用者数	6,605名	6,446名	102.46%
	1日平均利用者数	18.04名	17.66名	102.15%
	利用率	90.23%	88.30%	
王子	利用者数（定員数）	15名		
	開所日数	366日		
	延べ利用者数	3,362名		
	1日平均利用者数	9.18名		
	利用率	61.23%		

2. 地域活動支援センター事業（土日）

例年通り、グループホーム利用者を中心として定員 12 名で事業を展開しました。活動場所が GH 坂下 1 階ということもあり、近隣のスーパーやコンビニなどで買い物を行うなど、地域との繋がりを大切にしながら、利用者支援を行ってきました。雨天時などのドライブでは、瀬戸市や小牧市など遠方にまで足を運び、利用者が楽しく一日を過ごすことができるよう配慮してきました。利用実績については、開所日数が増えたことにより、微増していますが、ほぼ例年通りの結果となりました。

	令和元年度	平成 30 年度	前年度比
開所日数	104 日	103 日	100.97%
延べ利用者数	1,195 名	1,176 名	101.61%
1 日平均利用者数	11.49 名	11.41 名	100.70%
利用率	95.75%	95.14%	

3. 居宅介護事業・移動支援事業・福祉有償運送事業（移動サービス）

居宅介護事業・移動支援事業については、例年通り、グループホーム利用者を中心とした支援を実施してきました。利用実績については、GH の入退去に加え、年度末（3 月）の新型コロナウイルス感染防止を目的にサービス提供の縮小（一部、中止）をしたことから、微減といった結果になりました。福祉有償運送事業については、法人内事業所が送迎サービスを開始したことにより、サービス利用申し込みが少なくなったため、前年度比で大幅な減となりました。

		令和元年度	平成 30 年度	前年度比
居宅介護	契約者数	28 名	26 名	107.69%
	延べ利用者数	634 名	722 名	87.81%
行動援護	契約者数	5 名	5 名	100.00%
	延べ利用者数	147 名	151 名	97.35%
移動支援	契約者数	49 名	46 名	106.52%
	延べ利用者数	836 名	911 名	91.76%
移動サービス （有償運送）	契約者数	4 名	6 名	66.66%
	延べ利用者数	304 名	881 名	34.50%

事業報告附属明細書（総合相談支援センター）

今年度より地域サポートセンターから総合相談支援センター単一となり、障害のある方が地域でより豊かに生活できるように、春日井市相談支援事業、特定相談支援事業（障害児相談支援、一般相談支援事業含む）、扶桑町相談支援強化事業、障害者就業・生活支援センター事業、障害児等療育支援事業を実施しました。事業実績については以下の通りです。

1 障がい者生活支援センターかすがい

(1) 相談支援事業（委託相談）

春日井市より委託を受け、事業計画通り2名の有資格（社会福祉士等）相談員を配置し、主に知的障害者及びご家族の方々への基本相談を実施しました。今年度は、特別支援学校卒業後に不応適を起こし、日中活動や生活の場を変更したケース、措置中の方を児童相談所、学校教育機関と卒業後に向けて連携を図ったケースが目立ちました。

福祉サービスの利用、調整については、下記（2）の特定相談支援事業に移管してきているため、今後委託相談の役割は福祉サービスに限らない相談支援が多くなると思われます。

	令和元年度	平成30年度	前年度比
相談件数	1,654件	2,363件	69.99%
相談者数（新規）	159人	169人	94.08%

(2) 特定相談支援事業（自主事業）

本事業の積極的な推進を図るため、上記（1）との兼任者を含め、3.3名の常勤換算数で臨みました。法人内の事業所との連携のもと、「サービス等利用計画」・「継続利用支援計画（モニタリング）」の作成件数は着実に伸びました。又、精神障害者支援体制加算や特定事業所加算Ⅳの取得、サービス提供モニタリング加算の単独提出など、平成30年度では請求できなかった報酬も得られることができました。

	計画相談	モニタリング	サービス提供時 モニタリング加算単独
令和元年度	359	409	37
平成30年度	332	218	—
前年度比	108.13%	187.61%	—

2 障害児・者総合相談センターふそう（扶桑町相談支援事業）

扶桑町の相談支援強化事業として、有資格相談員1名を専従として配置し実施しました。障がい者の重度・高齢化や「親亡き後」を見据え、居住支援のための機能（相談・体験の機会の場、緊急時の受け入れ・対応、専門性、地域の体制づくり）に着目し、障がい者の生活を地域全体で支えるサービスの提供体制を構築していくため、基本相談の他、ソーシャルワークが求められ自立支援協議会の運営を含め非常に期待をされています。相談件数も大幅に増加をしました。

	相談者数	相談件数
令和元年度	68名	428件
平成30年度	10名	28件
前年度比	680.00%	1528.57%

3 尾張北部障害者就業・生活支援センターようわ（雇用安定等事業・生活支援等事業）

国（労働局）と県（福祉局障害福祉課）の両面より委託を受け、尾張北部圏域内にお住まいの障がい者へ就業面と生活面を一体的に支援するため、事業計画通り6名で実施をいたしました。主任就業生活支援ワーカー1名、就業支援ワーカー2名、生活支援ワーカー1名を坂下事務所に、就業支援ワーカー2名をサテライト柏森事務所に配置して臨みました。

通常の就業・生活相談支援に加え、年4回の在職者交流活動、年2回の関係機関のネットワーク構築のための会議の他、今年度より新たに労働局より、ピア・サポート活動、中小企業担当者の交流会が事業展開で増え、慌ただしい年度となりました。

なお、全国のモデル事業として、精神障害者・発達障害者の情報共有ツールを用いたアセスメント支援を継続的に依頼されており、より専門職としての担保は必須であり、引き続き人材育成に努めてまいります。

	令和元年度	平成30年度	前年度比
登録者	954名	777名	122.77%
相談件数	6,141件※	6,225件	98.65%
職場実習件数	80件	66件	121.21%
就職者件数	112件	114件	98.24%
職場定着率	86.5%	84.0%	102.97%

※相談件数識別（登録者：4,147件、関係機関：916件、事業主：1,078件）

4 障害児等療育支援事業

愛知県より受託し、尾張北部圏域における在宅障害児・者のライフステージにおける相談、巡回指導を事業計画通り、3事業（在宅支援訪問療育指導事業、在宅支援外来療育等支援事業、施設支援一般指導事業）を実施しました。圏域内各市町に、児童発達支援センターなど5市2町ごとに整備が為されたことにより、より当事業は支援施設として専門性を発揮することが求められています。今年度は施設支援一般指導事業として施設入所支援職員の専門的な取り組みを講演したことや、在宅支援外来療育等支援事業にて、これから特別支援学校を卒業される保護者への講演、当法人就労移行支援事業所の見学など、あらゆるニーズへの企画、実施を行いました。新型コロナウイルスの影響により残念ながら3月に企画していたものは中止となりましたが、年間予定スケジュールを超えるオーダーに 대응することができています。

	令和元年度	平成30年度	前年度比
在宅支援訪問療育等指導事業	24回 ※1	23回	104.34%
在宅支援外来療育指導事業	34回 ※2	50回	68.00%
施設一般指導事業	99回 ※3	87回	113.79%

※年度当初計画 1（4件）2（16件）3（71件）

事業報告附属明細書（障害者支援施設 養和荘）

生活介護事業(定員 75 名)、施設入所支援事業(定員 75 名)、短期入所事業(定員 5 名)を提供しました。利用者にとって、日々の暮らしが健康で充実したものとなるように考えて支援に取り組み、その目標は概ね遂行できたものと考えます。特に個別支援の場面においては、個々の特性に合わせた自立課題を積極的に取り入れるようにし、楽しく充実した時間が確保できるように努めました。

事業実績につきましては、以下のとおりです。

1. 利用者の状況

生活介護事業については、法人内の通所事業所を利用している方が 2 名あります。また短期入所利用者のうち、生活介護事業を利用する利用者が減少したことにより、延べ利用者数が減少となりました。

施設入所、短期入所事業の利用状況は従来と変わりありません。短期入所事業では、緊急、長期の利用者に加え、措置の利用者の受け入れも行いました。

利用者の状況は下表のとおりです。

	定員	開所日数	年度	利用状況		
				延利用者数	利用率	1日平均利用者数
生活介護	75 名	270 日	令和元年度	19,506 名	96.32%	72.24 名
		269 日	平成 30 年度	20,055 名	99.40%	74.55 名
			対前年比	97.26%		
施設入所	75 名	366 日	令和元年度	26,975 名	98.26%	73.70 名
		365 日	平成 30 年度	26,879 名	98.18%	73.64 名
			対前年比	100.35%		
短期入所	5 名	366 日	令和元年度	2,179 名	119.07%	5.95 名
		365 日	平成 30 年度	2,117 名	116.00%	5.80 名
			対前年比	102.92%		

2. 入退所の状況

入 所			退 所		
月 日	人 数	備 考	月 日	人 数	備 考
6 月 3 日	1 名	GH 坂下より	4 月 30 日	1 名	死亡
11 月 1 日	1 名	在宅より	9 月 23 日	1 名	死亡
1 月 1 日	1 名	在宅より	12 月 31 日	1 名	第二養和荘へ

3. 支援体制

個別支援計画に沿って、日常生活支援及び日中活動支援を行いました。午後の個別支援活動にて利用者個々に自立支援課題を作成し、その活動内容の充実を図るようにしました。

(1) 日中活動

活動名称・員数	内 訳	活 動 内 容
農 耕 (13名)	男性：13名 女性：0名	敷地内の畑にてトマト、大根等の栽培、収穫ができ、収穫したものを調理してもらい、利用者全員が試食をして楽しみました。
療 育 (21名)	男性：17名 女性：4名	外周路等の歩行やドライブを活動の中心とし、雨天時には室内で身体を動かすことで精神的な安定を図ることができました。
スヌーズレン (13名)	男性：7名 女性：6名	五感を刺激するスヌーズレン機器を活用するとともに、新たに取り組んだ足湯も好評でした。
運 動 (18名)	男性：13名 女性：5名	季節毎に歩行するルートを変えたり、エアロバイク等の運動器具を使用して幅広いメニューに取り組むことができました。
園芸、フェルト工芸 (10名)	男性：0名 女性：10名	花壇を用いて花の栽培を行い、熱心に水やりや植え替えができました。フェルト作品は春日井市役所作品展等に出展しました。
ヒップホップ (13名)	男性：8名 女性：5名	春日井まつり等、発表の機会が5回あり、保護者の前でも披露をすることができました。

※リラクゼーションとしてのフロアスヌーズレンや余暇活動での調理実習を実施し、楽しく過ごす時間が増えました。

(2) 主な行事等

実施日	行 事 等	行 先 ・ 開 催 場 所
8月18日	夏祭り	管理棟・養和荘1階フロア(第二養和荘合同行事)
9月16日	きずなコンサート	東部市民センター
11月3日	ふれあいまつり	養和荘多目的室他(第二養和荘合同行事)
12月1日	餅つき	ピロティ(第二養和荘合同行事)
12月25日	クリスマス会	養和荘多目的室他
	招待行事	木下大サーカス(6/4)
	小行事	イタリアンを楽しむ会(7/26)、カレーの会(11/22)、忘年会(12/17)、新年会(1/24)
	外出、外食	日本モンキーパーク、花フェスタ記念公園、トヨタ博物館、リニア鉄道館、リトルワールド、ぎふ清流里山公園等 市内各種飲食店

※外出、外食は2~6名程度の少人数にて出掛け、利用者一人あたり3~4回実施することができました。

4. 給食

利用者の嗜好、栄養バランスを考えた献立作りや栄養ケアマネジメントを通して、利用者にあった食事形態、カロリー等で食事を提供し、利用者の健康管理にも努めました。また、利用者のリクエスト献立やご当地グルメを取り入れ、献立作成に工夫を凝らしました。

5. 健康管理

健康診断を年2回実施すると共に、歯科検診を定期的の実施しました。健康診断については名古屋公衆医学研究所に依頼し検診車にて実施しました。今年度は、利用者のインフルエンザ等の感染症への罹患はありませんでした。

5月21日	利用者健康診断	名古屋公衆医学研究所検診車
10月4日	利用者健康診断	名古屋公衆医学研究所検診車
11月13日	インフルエンザ予防接種	森医師
月1回	嘱託医来所、健康相談	沖医師
〃	内科医による診察	森医師
年2回	嘱託歯科医による検診	川原歯科医師

6. 環境整備

清潔で快適な生活環境を維持できるよう日々の清掃等に心掛けました。修繕、修理等が必要なものは早期に対応を図り、生活に不都合がないように努めました。

7. 非常災害対策、防犯

災害が発生した場合に、利用者の生命の安全を最優先に行動できるよう避難誘導訓練等を実施しました。防犯対策については、防犯マニュアルをもとに緊急時の対応や防犯機器の取り扱いについての教育を行いました。また、事業継続計画（BCP）の勉強会に参加し、計画の策定に取り掛かるよう準備をしました。

実施日	訓練内容
4月2日	AED訓練等（新規採用者対象）
5月16日	風水害想定避難誘導・通報訓練
6月20日	夜間想定火災避難誘導・通報訓練
7月18日	夜間想定火災避難誘導・通報訓練
8月8日	夜間想定火災避難誘導・通報訓練
8月30日	防犯教育
9月2日	総合防災訓練（炊き出し訓練、地震体験車・煙道体験） 日中地震想定火災避難誘導・通報訓練
10月17日	夜間想定火災避難誘導・通報訓練
11月28日	夕方想定火災避難誘導・通報訓練
12月20日	防災教育
1月15日	災害伝言ダイヤル訓練
2月20日	緊急連絡網訓練
3月12日	夜間想定火災避難誘導・通報訓練

事業報告附属明細書（障害者支援施設 第二養和荘）

生活介護事業（定員 40 名）、施設入所支援事業（定員 40 名）、短期入所事業（定員 2 名）を実施しました。利用者の高齢化が進む中、安全で快適な生活を送ることができるように配慮すると共に、医療機関との連携を図りました。

事業実績につきましては、以下のとおりです。

1. 利用者の状況

生活介護、施設入所支援の利用状況は前年度より抑えました。施設入所支援契約者のうち 2 名は障害福祉サービス事業所「わかば」の就労継続支援 B 型を利用中です。

短期入所の利用は長期利用の方が GH に入居し、前年度より利用率は下がりました。

	定員	開所日数	年 度	利用状況		
				延利用者数	利用率	1 日平均利用者数
生活介護	40 名	270 日	令和元年度	10,231 名	94.73%	37.89 名
		269 日	平成 30 年度	10,272 名	95.46%	38.18 名
			前年度比	99.60%		
施設入所	40 名	366 日	令和元年度	14,068 名	96.09%	38.43 名
		365 日	平成 30 年度	14,312 名	98.02%	39.21 名
			前年度比	98.29%		
短期入所	2 名	366 日	令和元年度	451 名	61.61%	1.23 名
		365 日	平成 30 年度	554 名	75.89%	1.51 名
			前年度比	81.40%		

2. 入退所の状況

入 所			退 所		
月日	人数	備考	月日	人数	備考
4 月 1 日	1 名	GH 坂下より	7 月 6 日	1 名	死亡
7 月 29 日	1 名	他法人入所施設より	9 月 4 日	1 名	死亡
10 月 7 日	1 名	GH 坂下より	9 月 9 日	1 名	死亡
10 月 21 日	1 名	在宅より	10 月 3 日	1 名	死亡
1 月 1 日	1 名	養和荘より			

3. 支援体制

(1) 日中活動

創作活動で制作した作品は、施設内で掲示をして来訪者の方々に見ていただき、他にあいちアールブリュット展、福祉のつどい、障害者団体等作品展等に出展をしました。

また、月 2 回訪問リハビリを実施し助言を受けています。

活動名称	人数	活動内容
リハビリ (午前)	29名	歩行器等を使用しての館内歩行、平行棒や手すりを使った立ち上がりの運動を中心に、筋力維持・身体機能の回復を中心に行っています。
創作活動 (午前・午後)	9名	午前は絵画制作やフェルトにパンチングをして立体的な作品を作って飾っています。午後は破る、切る、貼る、塗る等の工程の得意なところを受け持ち、全員で一つの作品を作ります。
レクリエーション ・ゆったり (午後)	15名	レクでは遊具を使ってのゲームや、カラオケやCDに合わせた楽器演奏等で楽しみます。ゆったりでは足浴や、スヌーズレン用具等を使ってリラックスして過ごしています。
園芸	3～5名	プランターでの栽培の他に、サツマイモ等も植え、収穫も行っています。

(2) 行事・余暇等

行事については下記のとおり実施しました。小班編成でのグループ外出・食事会は、本人の希望を聞き取ってメンバーや行き先等を検討して実施しました。外出時等車両を使用する際には飲酒感知器を導入し安全運転により一層気を付けました。また、余暇にて調理実習等を行いました。

4月4日	お花見	団子を食べながら荘付近の花を観る。
4月18日	春の行楽	グリーンピア春日井
8月18日	夏祭り	養和荘管理棟前（養和荘合同行事）
9月16日	きずなコンサート	東部市民センターホール
11月4日	バーベキュー	第二養和荘ウッドデッキ
11月28日	秋の行楽	ホテルフォレストヒルズ・上郷サービスエリア
11月3日	ふれあいまつり	養和荘グラウンド（養和荘合同行事）
12月1日	餅つき	ピロティ（養和荘合同行事）
12月25日	クリスマス会	第二養和荘ダイルーム（食事、レクリエーション）
1月16日	新年会	第二養和荘ダイルーム（食事、レクリエーション）
3月12日	おつかれさま会	第二養和荘ダイルーム（食事、レクリエーション）
グループ外出・招待行事等	ナゴヤドーム（野球観戦）、木下大サーカス、小牧基地見学、名古屋港水族館、リニア鉄道館、トヨタ産業技術記念館、東山動植物園他	

4. 給食

利用者の状況を栄養士に報告し、食事形態や提供方法を個々の状態に合わせて対応することができました。季節感のある献立内容や利用者の希望メニューを取り入れることで利用者には好評でした。また、食前に嚥下体操を行い誤嚥の予防に努めました。

5. 健康管理

利用者の健康管理として、下記のとおり実施しました。

5月14日、10月15日	利用者健康診断	名古屋公衆医学研究所
11月21日	インフルエンザ予防接種	牧野ファミリークリニック
月1回	嘱託医来所、健康相談	沖医師
月1回	内科医による診察	牧野医師
年2回	嘱託歯科医による検診	川原歯科医師

今年度もインフルエンザの罹患者はいませんでした。手洗いとうがいの励行、手指や器具類のアルコール消毒や必要に応じて手袋、マスクの着用をしました。転倒による怪我の防止のための補装具の作製を行う等、利用者の高齢化に伴っての身体機能の低下への対応を利用者個々に行いました。

病気による医療機関への入院は下記のとおりでした。

年度	入院者数	入院期間
令和元年度	7名(8回)	236日(入退院日を含む)
平成30年度	6名(7回)	102日(入退院日を含む)

6. 入浴

月・水・金曜日を入浴日とし、利用者の介護度により一般浴と機械浴に分けて実施しました。発汗や汚染した際には適宜シャワー浴を行いました。

7. 環境整備

業者によるクロスの張り替え工事を行いました。日常的な施設設備の点検や日頃の清掃や整理整頓に心掛けて、利用者が快適に生活することができる環境作りに努めました。

8. 防災・防犯

火災・震災発生を想定した避難誘導訓練等については、下記のとおり実施しました。また、AED講習を今年度から取り入れました。

4月5日	新規採用職員防災教育、消火訓練
4月25日	避難訓練マニュアル確認
5月30日、6月20日、 7月18・23・30日、 9月19日、10月17日 11月25日、12月20日	夜間の火災想定、通報及び避難誘導訓練
9月2日	日中の地震・火災想定、通報及び避難誘導訓練、 炊出し訓練、地震・煙道体験
1月15日	防災教育(災害用伝言ダイヤル) 日中の風水害想定、通報及び避難誘導訓練
2月6・25日	AED講習
3月28日	日中の風水害想定、通報及び避難誘導訓練

事業報告附属明細書（障害福祉サービス事業所 はさま）

春日井市内在住の知的障害者に対して、通所支援サービスの生活介護事業（定員 25 名、契約者 45 名）、また、春日井市事業で土曜・日曜日の余暇支援として地域活動支援センター事業（定員 29 名＋緊急時 1 名、契約者 78 名）を実施しました。

事業実績につきましては、以下のとおりです。

生活介護

1. 利用実績（令和 2 年 3 月末日現在の利用契約者数 43 名）

年度	開所日数	区分 6	区分 5	区分 4	区分 3	区分 2	合計
令和元年度	257 日	3,370 名	3,097 名	1,100 名	13 名	0 名	7,580 名
平成 30 年度	255 日	3,118 名	2,948 名	1,109 名	10 名	0 名	7,185 名
前年度比		108.08%	105.05%	99.18%	130.00%	—	105.49%

※ 1 日の平均利用者数 29.49 名（平成 30 年度 28.17 名）

※ 平均障害支援区分 5.29（平成 30 年度 5.27）

2. 利用者状況

利用開始		利用終了	
1 名	11/25 他事業所より週 2 日利用	3 名	10/19 グループホーム（市外） 10/29 老人ホーム（市内） 11/21 養楽荘

3. 事業内容

(1) 個別支援計画

少なくとも 6 か月に 1 回はモニタリング・再アセスメントを行い、適宜計画の変更を行うとともに、緊急対応確認シートの内容、各利用者・保護者のニーズを確認して、より良いサービスが提供できるよう努めました。

(2) 日中活動の内容

- ア 歩行（コロニー外周・植物園・焼山公園・農村公園・第二養和荘外周）
- イ 運動（ラジオ体操、ストレッチ体操等）
- ウ 軽作業・創作活動（牛乳パックリサイクルの紙漉き・絵画、貼り絵等）
- エ ボランティア講師による活動（茶道、書道、ストレッチ、お手玉）
- オ レクリエーション（カラオケ、ゲーム等）
- カ 入浴（希望者）

(3) 健康管理

看護師による月 1 回の体重・血圧測定（高血圧の方は週一回）を実施し各家庭に報告しました。服薬や受診等の個別の健康状態については、緊急対応確認シートを活用し送迎時の家庭からの聞き取りにより利用者の現状把握に努めました。

健康診断は5月17日（名古屋公衆医学研究所来所）、インフルエンザ予防接種は11月19日（勝川医院来所）に実施しました。インフルエンザ罹患者はいませんでした。また、新型コロナウイルス感染症対策として、手洗い、事業所内の消毒・換気を励行しました。

歯科検診は養和荘歯科検診室にて、年2回行いました。

(4) ボランティア

日中活動の講師、利用者支援として、年間延べ259名のボランティアさんが活動され協力を得ることができました。3月からは新型コロナウイルス感染拡大防止のため活動を停止しました。

(5) レスパイトサービス

サービス提供時間外の延長サービスとして、延べ102名の方が16時～18時の時間帯に利用がありました。最大19時まで事業所内で見守り支援を行いましたが、この時間帯の利用はありませんでした。

(6) 年間行事

行事は下記のとおり実施しました。小グループによる外出やランチ外出は利用者の希望する場所に出かけました。

行事名	開催日	参加者				
		利用者	保護者	ボラ	招待	職員
春の行楽(レゴランドジャパン)	6月7日	26名		3名		20名
春のお茶会(煎茶・はさま内)	6月20日	27名	11名	5名	10名	19名
夏のつどい(はさま内)	8月28日	33名		1名		16名
きずなコンサート(東部市民センター)	9月16日	29名		5名		18名
秋のお茶会(抹茶・はさま内)	11月14日	27名	10名	5名	8名	18名
秋の行楽(恵那峡遊覧船)	10月8日	29名		4名		20名
新年のつどい(はさま内)	1月13日	27名	16名	5名		22名
小グループ外出 (参加延べ利用者数42名)	名古屋港水族館、モザイクタイルミュージアム、ビックエコー春日井店、アクア・トトぎふ、みのかも文化の森市民ミュージアム、みのかも健康の森、春日井グランドボウル センチュリーホール福祉コンサート					
ランチ外出 (参加延べ利用者数39名)	ロイヤルホスト、やじろべえ、ほっともっと、ガスト、サイゼリア、サガミ					

4. 学生実習

- (1) 中京大学 8～9月に各5日間、12名が教員免許取得のための介護等体験。
- (2) ナゴノ福祉歯科医療専門学校 5/23・30、計12名実習。
- (3) 社会福祉士相談援助実習 9/2～10/4、1名。

地域活動支援センター（春日井市事業：土曜日・日曜日）

1. 利用実績（令和2年3月末日現在の利用契約者数 75名）

年度	定員	開所日数	利用状況		
			延利用者数	利用率	1日平均利用者数
令和元年度	29名	103日	2,172名	72.71%	21.08名
平成30年度	29名	103日	2,255名	75.49%	21.89名
前年度比			96.31%		

2. 利用者状況

利用終了者3名（10月2名、12月1名）。

3. 事業内容

ストレッチ体操・歩行・カラオケの活動を中心とした余暇活動を実施しました。

全体

1. 給食

栄養士との給食会議で利用者状況を共有し、栄養バランスや嗜好を考慮した季節感を感じられる献立作りや、利用者個々に合った食事形態やカロリー制限での提供に努めました。

2. 送迎

各家庭等と事業所間を車両による送迎を実施しました。運転手は乗務前点呼（呼気検査、体調・運転免許証の確認）を実施し安全運転に努めました。

3. 防災・防犯

地震から火災、風水害、そして初めての不審者対応を想定した訓練を下記のように実施しました。また、非常食は3食分を備蓄しています。

6月11日	地震、火災を想定した避難訓練	生活介護
6月15日	地震、火災を想定した避難訓練	地域活動支援センター
6月16日	地震、火災を想定した避難訓練	地域活動支援センター
6月22日	地震、火災を想定した避難訓練	地域活動支援センター
6月23日	地震、火災を想定した避難訓練	地域活動支援センター
7月10日	地震、火災を想定した避難訓練	生活介護
7月24日	風水害にかかる避難訓練	生活介護
8月13日	不審者対応訓練	生活介護
9月2日	地震、火災を想定した避難訓練	生活介護
10月24日	地震、火災を想定した避難訓練	生活介護
11月22日	地震、火災を想定した避難訓練	生活介護
12月2日	風水害にかかる避難訓練	生活介護

事業報告附属明細書（障害福祉サービス事業所 なかぎりワークス）

就労継続支援B型事業の定員48名、契約利用者50名で事業実施しました。
事業実績につきましては、以下のとおりです。

1. 利用者の状況

定員	開所日数	年度	利用状況		
			延利用者数	利用率	1日の平均利用者数
48名	272日	令和元年度	11,655名	89.26%	42.84名
48名	273日	平成30年度	12,041名	91.88%	44.10名
		前年度比	96.79%		

*開所日数は、販売日による一部開所も含む日数

利用開始・終了

利用開始	利用終了	
なし	2名	県外に転居

2. 生産活動

(1) 農作物事業

ハウス利用の他、廻間町に畑を確保し露地での野菜栽培を行いました。生育しても害獣の被害による損失も生じており、見込んだ量の収穫とはなりませんでした。

	水菜調整受注	野菜販売（うちハウス水菜販売）	業務受注	合計
令和元年度	1,445,940円	553,860円（81,700円）	30,000円	2,029,800円
平成30年度	1,091,985円	424,403円（119,010円）	113,556円	1,629,944円
前年度比	132.41%	130.50%（68.64%）	26.41%	124.53%

(2) パン事業

納品・巡回販売及びギフト品の需要による売り上げが増加しました。秋のイベントが天候により開催中止となったことにより見込んだ収入が得られませんでした。2月末から新型コロナウイルス感染症による、学校・高齢者施設での販売及び行事イベントの中止により、販売量が激減しました。

	納品・店内販売	元気ショップ	イベント	合計
令和元年度	6,337,011円	5,641,930円	432,820円	12,411,761円
平成30年度	5,944,843円	6,010,420円	637,870円	12,593,133円
前年度比	106.59%	93.86%	67.85%	98.55%

(3) 製品受注事業

受注作業の取引会社は8社でした。年度途中から作業を休止となった取引先や、作業供給量の安定しない品目もありました。作業の難易度、納期等を考慮して受注量を調整しながら行いました。また、利用者に適した治具の工夫により、正確な作業と能率の向上に努めました。

令和元年度	960,522円	エルスタット、梱包屋、内職市場、京都キデイ、錦工業、正徳産業、ゲオ、ヤガミ
平成30年度	938,000円	
前年度比	102.40%	

(4) 利用者工賃

総収入額は前年度に達しませんでした。工賃の総支払額も減少していますが、利用者の退所により、支払い延べ人数が減少したため平均工賃月額は微増となりました。

	作業総収入額	工賃総支払額	支払延人数	平均工賃月額
令和元年度	15,402,083円	7,153,588円	596名	12,002円/月
平成30年度	15,551,077円	7,298,000円	611名	11,944円/月
前年度比	99.04%	98.02%	97.54%	100.48%

*平成30年度は施設外就労390,000円あり。

3. その他

(1) 個別支援計画

計画に沿った支援を行うと共に、6ヶ月毎にモニタリングし、利用者・保護者の意見・要望を聴き取りつつ、次期計画につなげるようにしました。

(2) 健康管理

利用者の健康管理を、下記のとおり行いました。

5月13日	利用者健康診断（名古屋公衆医学研究所来所）
10月3日	歯科検診・歯磨き指導（ナゴノ福祉歯科医療専門学校）
11月11日	インフルエンザ予防接種（勝川医院来所）

(3) 給食

業者委託による給食提供を行いました。委託先の栄養士が定期的に来所し、利用者からの意見・要望を聴き取り、献立に反映しました。

(4) 通所支援

マイクロバスと8人乗り送迎車両にて、春日井駅・八光公園、勝川駅の送迎、また、高蔵寺方面の利用者及び一部グループホーム利用者の送迎を実施しました。33名の利用者が送迎サービスを利用しました。

(5) 行事

行事は下記のとおり実施しました。

6月 3日	お楽しみ旅行（レゴランド水族館）
9月 16日	きずなコンサート（東部市民センター）
11月 16日	げんきまつり（なかぎりワークス内）
12月 23日	クリスマス会（なかぎりワークス内）
1月 11日	新年会（なかぎりワークス内）

(6) 本人会支援

利用者のエンパワメントを高める機会として、毎月本人会（せいかつ集会）を開催し、意見発表の場を設けるとともに、委員会活動などが主体的に進められるよう、見守り・助言を行いました。

(7) 地域交流・地域貢献

春日井まつりどっこいせパレードに利用者 22 名、職員 4 名が参加し、鳥居松 1 丁目から市役所まで、踊りを披露しました。

地域貢献活動としては、庄内川河川敷清掃及び本人会活動による地域美化（ゴミ拾い）活動を実施しました。

(8) 防災・防犯

防災及び防犯の訓練は下記のとおり実施しました。

4月 26日	防災・防犯オリエンテーション
9月 2日	法人総合防災訓練（地震・火災想定避難訓練）、非常食体験
11月 25日	水害避難訓練
3月 17日	火災想定通報・避難訓練

(9) 苦情解決

苦情の受付は 3 件あり、迷惑行為に対する苦情及び職員の運転マナーに関する苦情でしたが、いずれも解決しております。

事業報告附属明細書（障害福祉サービス事業所 わかば）

事業所の利用定員は、40名と変わりなく、生活介護事業（定員10名）と就労継続支援B型事業（定員30名）を実施しました。両事業とも適切な環境のもとに支援を行いました。

事業実績につきましては、以下のとおりです。

1. 生活介護事業

(1) 利用者状況

ア 契約利用者数 10名

年度	定員	開所日数	延利用者数	利用率	1日平均利用者数
令和元年度	10名	257日	2,486名	96.73%	9.67名
平成30年度	10名	255日	2,380名	93.33%	9.33名
前年度比			104.45%		

イ 利用開始・利用終了

利用開始		利用終了	
人数	備考	人数	備考
0名	—	0名	—

(2) 支援状況

ア 週間スケジュール

下記の週間スケジュールを基本として活動しました。運動内容については、昨年度と同様に利用者の年齢差を考慮した内容としました。

	月	火	水	木	金
午前	歩行	歩行（車両）	歩行	歩行	創作活動
午後	創作活動	レクリエーション	創作活動	レクリエーション	ドライブ

イ 支援内容

活動項目	内容
創作活動	12月は、春日井市役所での「障がい者団体等作品展」、1月は「むがむちゅう展」出展に向けニードルパンチング、貼り絵、絵画、手織り、俳句等の制作を行い、出展しました。どちらの作品展も会場まで足を運び鑑賞しました。
歩行・運動	近隣の公園への散歩は、体力面等を考慮し複数に分けて出掛けました。行先に応じて、お散歩されている方と挨拶を交わしたり、動物の様子を観察したりして、楽しみながら出掛けました。
レクリエーション	カラオケ、ダーツ、輪投げ、室内サッカー、ボーリング、DVD観賞等を行い、余暇時間の充実を図りました。
ドライブ	近郊の公園（植物園、定光寺公園等）に公用車で出掛け、車窓の風景や現地での散策、動物鑑賞等により、気分転換を図ることができるようになりました。
その他	ハロウィンの行事では仮装、クリスマス会ではダンス、お菓子作りでは、3月にひなまつりのケーキを作り、それぞれ皆で楽しみました。

2. 就労継続支援 B 型事業

(1) 利用者状況

ア 契約利用者数 29 名

年度	定員	開所日数	延利用者数	利用率	1 日平均利用者数
令和元年度	30 名	259 日	6,738 名	86.71%	26.01 名
平成 30 年度	30 名	257 日	7,318 名	94.91%	28.47 名
対前年比			92.07%		

イ 利用開始・利用終了

利用開始		利用終了	
人数	備考	人数	備考
1 名	他事業所より		—

(2) 支援状況

ア クリーニング作業

入所施設からの洗濯物受注を基幹作業とし、中日本リネンからも布団類等の洗濯を受注しました。また、昨年度に引き続き独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構愛知支部 中部職業能力開発促進センター（通称 ポリテクセンター中部）より、宿泊者の寝具類のクリーニング受注も行いました。その他、不定期ではありますが、じゅうたんや法被等クリーニングの依頼も受け、実施することが出来ました。

イ 内職作業

レンタル DVD ケース磨き等の作業、気泡緩衝材の切断・仕分け・梱包作業、毛染め説明書袋詰作業、キューマスク（人工呼吸時に使用するマスク）ケース詰め作業を中心に実施しました。また、昨年度に引き続き養楽荘の洗濯物たたみ・仕分け作業も並行して行いました。

その他、11 月よりオリエンタル紙業株式会社より、新たにペーパーナフキン・ポケットティッシュの袋詰め作業の受注を開始し、作業内容の充実を図りました。

(3) 利用者工賃の状況

利用者数が前年度より年間を通して少なかったことを受け、月額平均工賃が大幅に増える形となっています。ただし、外部クリーニング作業収入、内職の受注作業収入増加により、前年度に比べ総収入額も増やすことが出来ています。

年度	総収入額	経費総額	工賃総支払額	工賃支払 延利用者数	月 額 平均工賃
令和元年度	10,676,437 円	4,982,818 円	5,693,619 円	336 名	16,945 円
平成 30 年度	9,645,521 円	4,398,321 円	5,247,200 円	369 名	14,220 円
対前年比	110.68%	113.28%	108.50%	91.05%	119.16%

3. 共通事項

(1) 個別支援計画

計画担当者4名を中心とし、計画内容に沿った適切なサービスを提供しました。また、保護者・利用者のニーズを聴き取り、計画内容を6か月毎に見直し、次期計画につなげるようにしました。

(2) 健康管理

緊急対応確認シートを見直すと共に、利用者健康診断・インフルエンザ予防接種を実施しました。また、看護師による体重測定等を通し、健康への意識付けを図りました。

今年度は、1月に職員1名がインフルエンザA型に罹患しましたが、その他の職員、利用者に広がることはありませんでした。

(3) 給食

キッチン高森に委託し、日々の食事提供を行っています。利用者の誕生日に「誕生日デザート」の提供を実施すると共に、利用者の意見を伝え、美味しい食事の提供に努めました。

(4) 行事

一部保護者会協力(★印)の下、以下の行事を実施しました。

4月5日	お花見	おやつ会(事業所内)
5月31日	★バーベキュー・流し素麺	昼食を兼ねて実施(事業所内)
7月26日	お楽しみ夕食	はんなり春日井店
9月16日	きずなコンサート	東部市民センターにて後援会主催のコンサート
10月4日	社会見学(1班)	えびせんべいの里(工場見学)・まるは食堂
10月11日	社会見学(2班)	えびせんべいの里(工場見学)・まるは食堂
10月25日	社会見学(3班)	えびせんべいの里(工場見学)・まるは食堂
12月25日	★クリスマス会	昼食会・演芸会(事業所内)
1月10日	餅つき大会	昼食を兼ねて実施(事業所内)
2月3日	節分会	豆まき等(事業所内)
3月3日	桃の節句	デザート会食(事業所内)
3月18日	慰労会	一年の振り返りを兼ねた昼食会(事業所内)

(5) 環境整備

9月24日、専門業者による殺虫対策を実施しました。

(6) 防災・防犯

毎月避難訓練を実施し、平均6分(昨年度平均6分47秒)と、昨年度より避難完了までの時間を短縮することが出来ました。また、昨年同様職員に対する防災関連のミニテストも実施しました。その他、総合防災訓練時には非常食の運び出し訓練等も実施しました。

防犯については、緊急時に使用出来るようさすまたを2本購入しました。また、玄関先には入館時に必ず事務所にお声がけいただくよう、注意喚起のポスターを掲示する等、対策を講じました。

事業報告附属明細書（障害福祉サービス事業所 さいおワークス）

西尾町と坂下町の2事業所において、事業を実施いたしました。

西尾では、就労継続支援B型事業（定員20名）、土・日曜日の地域活動支援センター事業（定員13名）を実施しました。

坂下では、就労移行支援事業（定員8名）を実施しました。

事業実績につきましては、以下のとおりです。

1. 利用者の状況

（1）就労移行支援事業及び就労継続支援B型事業

利用状況は以下のとおりです。

	定員	開所日数	年度	利用状況		
				延利用者数	利用率	1日平均利用者数
就労移行	8名	257日	令和元年度	1,754名	85.31%	6.82名
	8名	255日	平成30年度	1,628名	79.80%	6.38名
			前年度比	107.73%		
就労継続B型	20名	257日	令和元年度	4,973名	96.75%	19.35名
	20名	255日	平成30年度	4,994名	97.92%	19.58名
			前年度比	99.57%		

入退所状況は以下のとおりです。

	利用開始		利用終了	
	人数	備考	人数	備考
就労移行	2名	在宅より	7名	一般就労へ
	1名	委託訓練より	1名	就労継続A型へ
就労継続B型	0名	—	0名	—

就労移行は新規利用者が3名、利用終了者は8名（一般就労7名、A型1名）となりました。延べ利用者数は前年度比112.94%となっています。

就労継続B型は1年間通して利用者数に変動はありませんが、入院等にて利用者の欠勤があり1日平均利用者数が微減しました。

（2）地域活動支援センター事業

利用状況は以下のとおりです。

定員	開所日数	年度	利用状況		
			延利用者数	利用率	1日平均利用者数
13名	103日	令和元年度	852名	63.62%	8.27名
13名	103日	平成30年度	937名	69.97%	9.09名
		前年度比	90.92%		

新型コロナウイルスの影響を含め、利用者の欠席があったことや新規利用者もなかったことから利用率が減少しています。

2. 作業収入・工賃の状況は以下のとおりです。

【就労継続 B 型】

年度	総収入額	総経費額	工賃総支給額	延利用者数	平均工賃月額
令和元年度	3,116,051 円	20,736 円	3,095,315 円	249 名	12,430 円
平成 30 年度	3,083,152 円	105,547 円	2,977,605 円	252 名	11,815 円
前年度比	101.06%	19.64%	103.95%	98.80%	105.20%

新型コロナウイルスの影響が幾つかの作業種でありましたが、作業が切れてしまうということはありませんでした。また、経費については、前年度で終了とした「みたらし団子販売」がなくなったことで減額となっています。

【就労移行支援】

年度	総収入額	総経費額	工賃総支給額	延利用者数	平均工賃月額
令和元年度	334,368 円	0 円	334,368 円	98 名	3,411 円
平成 30 年度	169,970 円	0 円	169,970 円	67 名	2,536 円
前年度比	196.72%	—	196.72%	146.26%	134.50%

平均工賃月額は前年度に比べ 875 円/月の増となっています。工賃は利用者の作業・訓練へのモチベーションアップにもつながっているため、安定的に作業を受注することが課題となっています。

3. 支援体制

利用者個々のニーズを基にした個別支援計画に沿って、就労移行支援では一般就労及び就労定着を目指して、事業所内での訓練や職場体験・実習、職場定着支援を行い、就労継続支援 B 型事業では施設内での受注作業や施設外就労を通し、働く喜びや達成感が得られるよう支援しました。

具体的な内容については以下のとおりです。

(1) 日中活動、訓練

就労移行支援	事業所内訓練	事務系作業（パソコン作業、作業日報、物品請求書、数値チェック）、製造及びサービスに関する作業（計量、組立、物流ピッキング、ラップ掛け）、JST（職場対人技能トレーニング）を行いました。また、キューマスク袋詰め、DPD 錠剤袋詰め等の受注作業も行い、工賃を受け取ることにより働く喜びと、適度な緊張を感じながら作業を行いました。
	就職活動	求人票の見方、履歴書や職務経歴書の作成、模擬面接を行なうなど、就職に向けての意識を高めるようにしました。また、企業説明会や面接にも付き添い、就職活動を行いました。
	職場体験、実習	一般就労や A 型事業所の利用に向けて、事前見学や面談を行い、職場体験や実習に臨みました。
	職場定着	一般就労した方については、就職後 6 か月間、就労先を訪問し、本人や企業の担当者から聞き取りを行い調整・助言を行いました。また、家族からの相談にも対応しました。
就労継続 B 型	受託作業	協力会社 5 社より作業を受注し、毛染め用品のセット、梱包、ビニールロープの樹脂リングの取付け、キューマスクの袋詰め、気泡緩衝材梱包作業等を中心に取り組みました。
	施設外就労	ゲオ店舗清掃業務（8 回/月、利用者 3 名支援員 1 名で編成）実施。春日井市委託：内津公衆便所清掃（2 回/週、利用者 2 名支援員 1 名で編成）で実施しました。

地域活動	余暇活動	身近なものを使った工作、カレンダー作り等の創作活動。散歩などの運動。カラオケ等の音楽を用いた活動。その他、ドライブ、DVD鑑賞、花見等で余暇支援を行いました。
	調理実習	買物に出かけ食材を購入して、昼食やおやつ作りを行いました。
	公共施設利用	坂下公民館の図書室へ出掛けて読書をしました。

(2) 主な行事等

5月3日 10月22日	バーベキュー	さいおワークス
7月15日 11月4日	お茶会	さいおワークス
9月16日	市民きずなコンサート	東部市民センター
11月13日 11月25日	秋の行楽 (B型) 秋の行楽 (移行)	中部国際空港 名古屋港水族館
11月22日	西尾小学校交流会	さいおワークス
12月25日	クリスマス会	さいおワークス
1月13日	新年会 (もちつき)	さいおワークス

(3) 健康管理

5月15日	健康診断	11月26日	インフルエンザ予防接種
-------	------	--------	-------------

毎月1回の血圧測定・体重測定を実施しました。手洗い、うがいを励行し必要に応じてマスクを着用し感染症の予防に努めました。インフルエンザへの罹患はありませんでした。

(4) 給食

就労継続支援B型は、安心できる食材を使用した栄養バランスの良い「キッチン高森」のクックチル方式の食事を提供しました。

(5) 送迎

家庭と事業所、拠点間の送迎をしました。職員間の連絡不徹底によるお迎え忘れが1件、送迎時に利用者自身がドアに指を挟み骨折・ヒビを負うということが2件起きてしまいました。何れも改善対応を行っています。

5. 防災防犯

火災、地震の災害が発生した場合に備え、利用者の安全確保を第一に考えて行動ができるように、避難誘導訓練等を次のとおり実施しました。

また、防犯マニュアルを策定し不審者の侵入に対する対応を職員に周知徹底しました。

月 日	訓 練 内 容
8月14日	風水害想定避難訓練 (B型、就労移行)
8月17日・18日	風水害想定避難訓練 (地活)
9月2日	日中想定地震火災避難誘導訓練 (B型、就労移行)
12月24日	風水害想定避難訓練 (B型、就労移行)
3月21日・22日	日中想定地震火災避難誘導訓練 (地活)

事業報告附属明細書（障害福祉サービス事業所 みずほ）

定員 20 名の生活介護事業所として事業を継続しております。利用者の障害程度や年齢など幅広くなっておりますので、個々のニーズをとらえながら安全・快適で充実した生活を送れるよう支援しました。事業実績につきましては、以下のとおりです。

1. 利用者状況

(1) 利用実績

定員	開所日数	年度	利用状況		
			延利用者数	利用率	1日の平均利用者数
20名	257日	令和元年度	4,881名	94.96%	18.99名
20名	255日	平成30年度	4,214名	82.62%	16.52名
		前年度比	115.82%		

新規利用者が増えて、前年度を上回る結果となりました。

(2) 利用開始・終了

利用開始		利用終了	
人数	備考	人数	備考
2名	特別支援学校卒業生（1名） 他事業所から（1名）	2名	施設に入所（2名）

2. 事業内容

(1) 支援内容

ア 個別支援計画

利用者・家族の意見・要望を聞き取りながら、支援内容の見直しを行いました。

イ 日中活動の内容

様々な活動を通して心と体の健康を維持すると共に、他者や地域と交流する機会をたくさん持てるよう支援しました。

(ア) 歩行（近隣の公園等への身体機能に合わせた歩行）

(イ) 運動（ラジオ体操、ストレッチ、ダンス、フライングディスク等）

(ウ) 生産活動（毛染め用の手袋・櫛・説明書をセットする軽作業）

	令和元年度	平成30年度	前年度比
作業収入	248,473円	245,958円	101.02%
工賃支給者（延べ）	249人	233人	106.86%
平均工賃（月）	997円	1,055円	94.50%

(エ) 創作活動（絵画、手芸、工作等）

(オ) 園芸

(カ) 音楽（歌、楽器演奏等）

(キ) レクリエーション（ゲーム、カラオケ、DVD鑑賞、季節に合わせた行事等）

(ク) 社会参加（公園清掃、公共施設の利用、公共交通機関の利用、買物、外出等）

午前は主に生産活動に取り組み、午後は運動・レクなどの活動でリフレッシュできる内容になっています。生産活動では、利用者の気持ちの安定・充実を図りつつ参加率も向上できるように取り組みましたが、業者都合により安定した受注数が確保できず一人当たりの工賃額は減少しています。

ウ 健康管理

日常的に保護者等と情報共有しました。健康診断等は、下記のように行いました。

毎月第1水曜日	体重・血圧測定	みずほ看護師
5月20日	利用者健康診断	名古屋公衆医学研究所
11月20日	インフルエンザ予防接種	勝川医院の往診
5月（前期） 12月（後期）	歯科検診	養和荘歯科検診室

(2) 年間行事

誕生会や季節を感じられる行事を行いました。外出等は下記のように行いました。

6月19日	行楽	名古屋市科学館に行き、館内の見学と昼食を楽しむ。
9月16日	きずなコンサート	東部市民センターにて後援会主催のコンサートに参加する。
10月18日	グループ外出	利用者の希望で東山動物園と南知多ビーチランドに分かれたが、雨天の為全員で南知多ビーチランドに出かける。
11月6日	みずほの集い	福祉の里にて、利用者・保護者・職員・ボランティアでレクや会食を楽しむ。

3. その他のサービス内容

(1) 給食

宅配の食材により、事業所内で調理して食事提供をしました。

(2) 送迎

送迎車両を1台増やして4ルートでの送迎を実施しました。短期入所利用時は、宿泊先への送迎も行いました。事故等なく円滑に送迎を行う事ができました。

(3) 防災

下記のように訓練を行いました。

5月10日	避難訓練（火災想定）	緊急避難場所（天王公園）まで避難
9月2日	避難訓練（地震想定）	緊急避難場所（天王公園）まで避難
令和2年 4月15日	災害用伝言ダイヤル 体験利用	災害時の保護者との連絡方法の訓練・確認。予定していた体験利用日（2/15）が週末だった為、4月に実施。

(4) 防犯

特に問題となるような事はありませんでした。

事業報告附属明細書（障害者支援施設 養楽荘）

施設入所支援事業（定員 40 名）、生活介護事業（定員 40 名）及び短期入所事業（定員女性 5 名）のサービス提供をしました。平均年齢も高いことから、利用者に安心・安全に落ち着いた生活を送っていただけるように支援してきました。

事業実績につきましては、以下のとおりです。

1. 利用者状況

定期帰省の期間中も半数以上の方は養楽荘で生活されています。また、帰省されても、帰省日数の減少も見られます。ただ、利用者の入院・入退所の関係から利用者数が減少しています。短期入所については、週末の利用が中心になりますが、下半期に長期利用者が入ったため、増加しました。

	定員	年度	開所日数	延利用者	利用率	1日平均利用者数
生活介護	40名	令和元年度	270日	10,677名	98.86%	39.54名
		平成30年度	269日	10,753名	99.93%	39.97名
施設入所	40名	令和元年度	366日	14,197名	96.97%	38.78名
		平成30年度	365日	14,256名	97.64%	39.05名
短期入所	5名	令和元年度	366日	742名	40.54%	2.02名
		平成30年度	365日	592名	32.43%	1.62名

2. 利用者の入退所状況

入 所			退 所		
月日	人数	備考	月日	人数	備考
11月25日	1名	在宅より	10月19日	1名	死亡

3. 利用者支援

(1) 日中活動

5月に活動班の見直しを行い利用者の状態に合わせて午前・午後の活動共に男女合同で参加してもらいました。午前中は、音楽療法、理学療法、山歩行、スノーブレンの4つの班に分かれて活動を行いました。

午後は以下のとおりになります。

月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
音楽活動	ジョイサウンド	リハビリ	園芸	工作
自立支援課題	自立支援課題	自立支援課題	自立支援課題	自立支援課題

(2) 行事

5月30日	春の行楽	あいち航空ミュージアム
7月5日	七夕会	養楽荘（訓練作業室）
8月29日	夏祭り	養楽荘（訓練作業室）
9月16日	きずなコンサート	東部市民センター
10月17日	秋の行楽	牧歌の里（岐阜県）
10月30日	秋まつり 運動会	養楽荘（訓練作業室）
11月21日	焼き芋パーティー	養楽荘（訓練作業室）
12月24日	クリスマス会	養楽荘（訓練作業室）
12月23日	ゆず湯	養楽荘 男女各風呂
12月27日	餅つき	養楽荘（訓練作業室）
12月31日	忘年会	養楽荘各棟
1月19日	新年会	養楽荘（訓練作業室）
2月4日	節分	養楽荘（訓練作業室）
3月18日	バーベキュー	養楽荘（訓練作業室）

*上記以外に、小グループでの外出・外食・招待行事にも出かけています。

4. 健康管理

入院となる利用者が5名あり、内1名が手術を行っています。インフルエンザの罹患者はありませんでした。

定期健診・予防接種

5月16日	健康診断	名古屋公衆医学研究所
10月1日	健康診断	名古屋公衆医学研究所
10月31日	インフルエンザ予防接種	田島クリニック

* 歯科検診は、7月～8月・2月の2回、養和荘歯科検診室にて実施

往診等

毎月1回	健康相談等	沖医師
3～5週に1回	内科医による診察	田島クリニック
3～5週に1回	精神科医による診察	あさひが丘ホスピタル

5・給食

管理栄養士にて献立をたて、委託先のキッチン高森の食事を提供しました。栄養面・嗜好・季節に合わせたメニュー作り、個々人に合わせてカロリーの変更を行ってきました。食事形態の変更が必要な方には、様子を見ながら調整をしてきました。

6. 入浴

週に4日、一般浴と機械浴（男性4名）に分かれて入浴を実施しています。入浴日以外の日で夏の運動後などにはシャワー浴を実施してきました。

7. 環境整備

使用頻度の高い扉を中心に、経年劣化により修繕が必要となることが多かったです。利用者の不便にならないように、定期的に確認を行い快適な生活環境を提供してきました。また、日々の清掃・整理整頓なども実施しました。

8. 学生実習

中学生 23 名（高森台・石尾台）・高蔵寺高校 3 名・中部大学 3 名・警察学校生 48 名・アリアーレビューター専門学校 34 名の計 111 名の方の受け入れを行いました。職場体験や福祉実習・インターンシップと目的や時間も違いますが、利用者に関わっていく中で何か感じてもらえたようです。

9. 防災・防犯

防災訓練は以下の表の通り実施してきました。

防犯については、昨年度の春日井警察による防犯講習会を録画したDVDを利用して新規・中途採用の職員に対して講習を実施しました。また、来客者には来荘者証を着用してもらっています。

防災訓練一覧

4月25日	日中火災想定による避難訓練・消火訓練・通報訓練
5月27日	夜間火災想定による避難訓練・消火訓練・通報訓練
6月18日	夜間火災想定による避難訓練・消火訓練・通報訓練
6月25日	夜間火災想定による避難訓練・消火訓練・通報訓練
7月16日	夜間火災想定による避難訓練・消火訓練・通報訓練
9月2日	日中の地震から火災想定による避難訓練・消火訓練・通報訓練 地震体験車、煙道体験・炊き出し訓練の実施・
10月30日	夜間火災想定による避難訓練・消火訓練・通報訓練
11月22日	夜間火災想定による避難訓練・消火訓練・通報訓練

その他

9月26日	AED講習
10月1日	AED講習

事業報告明細書（障害福祉サービス事業所 キッチン高森）

キッチン高森では就労継続支援 A 型事業所（定員 15 名）として厨房業務を行っています。

令和元年度は、隣接する障害者支援施設養楽荘・はるひ荘利用者及び障害福祉サービス事業所わかば利用者等への給食提供並びにさいおワークス利用者への食材提供を行うと共に、第二希望の家利用者への弁当販売及び職員等を対象とした惣菜販売を実施いたしました。

また、令和 2 年 2 月キッチン高森分場が竣工し、4 月から養和荘、第二養和荘及びはさまの利用者等への給食提供を行うこととなります。

キッチン高森利用者が自立した日常生活や社会生活を営むことができるよう、雇用の機会を提供すると共に、就労に必要な知識及び能力の向上のために必要な訓練等を実施しました。

事業実績につきましては、次のとおりです。

1. 利用者状況

年 度	定 員	開所日数	利用状況		
			延べ利用者数	利用率	1 日平均利用者数
令和元年度	15 名	366 日	3,274 名	59.63%	8.94 名
平成 30 年度	15 名	365 日	3,540 名	64.65%	9.69 名
前年度比			92.48%		

・利用者の動向

利用開始		利用終了
人 数	備 考	人 数
1 名	春日台特別支援学校より	2 名
1 名	一般就労より	

2. 作業内容、営業時間及びサービス提供時間の状況

作 業 内 容	利用者の適性に応じた作業内容とし、主調理を始め、盛付、配膳、下処理、洗浄作業等の業務を行います。
営 業 時 間	午前 6 時から午後 8 時間まで
サービス提供時間	午前 6 時から午後 8 時まで(このうち最大 8 時間)

- (1) 朝食、昼食、夕食の 3 食を提供しているため、利用者の勤務時間はローテーションを組み実施しました。
- (2) エビ及びさばアレルギー食利用者には、代替食を提供すると共に、誤食がないよう確認作業を実施しました。

3. 給食等の提供状況

(1) 給食の提供

提 供 先	提供者区分	年間提供食数		
		令和元年度	平成 30 年度	前年度比
養楽荘（朝食・昼食・夕食）	施設入所者	42,036 食	41,222 食	101.97%
	短期入所者	1,491 食	1,259 食	118.42%
はるひ荘（朝食・昼食・夕食）	施設入所者	43,434 食	41,971 食	103.48%
	短期入所者	5,347 食	4,745 食	112.68%

さいおワークス(昼食)	通所利用者	4,952 食	5,493 食	90.15%
わかば(昼食)	通所利用者	8,843 食	9,241 食	95.69%
合 計		106,103 食	103,931 食	102.08%
養楽荘・はるひ荘・キッチン高森等職員(スタッフ含む)		8,999 食	7,188 食	125.19%

(2) おやつ提供

提 供 先	提供者区分	年間提供食数		
		令和元年度	平成 30 年度	前年度比
養楽荘	施設入所者	1,899 食	1,861 食	102.04%
はるひ荘	施設入所者	2,234 食	2,151 食	103.85%

(3) 弁当の提供

提 供 先	提供者区分	年間提供食数
第二希望の家	施設成人利用者	1,306 食
	施設幼児利用者	212 食

(4) 惣菜販売(11月～3月毎週金曜日)

パック種類	販売数
500 円パック	66 個
200 円パック	402 個
150 円パック	444 個

* (3) (4)は令和元年度新規事業

4. 利用者への支援

(1) 個別支援

利用者のニーズ等を基に策定した個別支援計画に沿い、利用者個々の状況に合った支援を実施しました。

(2) 健康管理

利用者の日々の健康状況等の確認を行い、変調がある場合には保護者と連携を行い対処しました。また、年 1 回の定期健康診断を実施し、利用者の健康管理に努めました。

(3) 衛生管理

衛生管理の徹底を図るため、利用者及び作業所内の衛生管理事業を次のとおり実施しました。

実施項目		実施状況
利 用 者	検便	毎月
	衛生講習会(外部)	6 月 20 日、12 月 23 日
	服装・身だしなみ・つめ・頭髪等の衛生点検	毎日
	手洗い講習	毎月
作 業 所	衛生検査(外部)及び講評	6 月 20 日、12 月 23 日
	衛生検査(内部)	毎月
	厨房害虫駆除 (外部)	毎月

グリストラップ清掃（外部）	年 4 回
グリストラップかご清掃（内部）	毎月

※ グリストラップ（油脂分離阻集器）－水中の生ごみ・油脂などを直接下水道に流さないために、一時的にためておく設備で、そのまま放置しておく、悪臭や害虫の発生、食中毒の温床となる。

(4) 通所支援

勤務時間等を考慮し、公共交通機関による通所が困難な利用者に対して、拠点(JR高蔵寺駅)と事業所間の送迎を実施しました。 延べ利用者数：1,439人

5. 行事

利用者の教養娯楽事業を次のとおり実施しました。

行事名	回数・実施日
誕生日会	8回(4月、6月、8月、9月、10月、12月、1月、3月)
ボーリング	6月1日
ハロウィン	10月28日
クリスマス会	12月20日

6. 防災・防犯

火災、地震の災害や犯罪等が発生した場合に備え、利用者の安全確保を第一に考えて行動等ができるように、ホイッスル、ヘルメット等を活用した避難誘導訓練等を次のとおり実施しました。

事業名	回数・実施日
防災・防犯訓練(消火、通報、避難誘導)	年 8 回(5月17日、6月18日、7月16日、9月2日、10月30日、11月22日、2月21日、3月27日)
非常食備蓄	非常食・飲料水を3日分

7. 施設実習

瀬戸つばき特別支援学校高等部生徒を対象に、次のとおり施設実習をしました。

実施時期	学年	人数
令和2年2月4日～2月7日	2年生	1名

事業報告附属明細書（障害者支援施設 はるひ荘）

施設入所支援事業（定員 40 名）、生活介護事業（定員 40 名）短期入所事業（定員 5 名）でサービス提供をしました。開所して 3 年目となり、日中活動が活発なものになりました。それに伴って利用者の日常生活が落ち着き、生活のリズムがつきやすくなっています。行動的な問題のある方がほとんどですが、家庭的な雰囲気作りを心掛け、利用者が安心できる生活を提供しました。事業実績につきましては以下の通りです。

1. 利用者状況

数名の利用者を除き、ほとんどの方が帰省や外出がなく、はるひ荘を中心とした生活です。開所から、職住分離を計画的に進め、令和元年度は 1 名がご本人の希望を叶え、グループホームで生活を始めました。現在もグループホームでの生活を希望する方数名に日中、法人内外通所施設（就労 B 1 名、生活介護 5 名）に通っていただいております。今年度は、肺炎、骨折など入院が長引いた方が数名おられました。

短期入所事業は、新規登録者数は 8 名でしたが、総登録者数は 51 名です。今年も障害児入所施設からの移行希望、障害が重く、他事業所を利用できなかった方の利用希望が目立ちました。利用希望者が極めて多く、予約制で利用していただいておりますが、家庭療育困難な方で日中支援も必要な方 4 名は、優先的に利用していただきました。

	定員	年度	開所日数	延利用者	利用率	1日平均利用者数
生活介護	40名	令和元年度	270日	10,053名	93.08%	37.23名
		平成30年度	269日	9,900名	92.00%	36.80名
施設入所	40名	令和元年度	366日	14,480名	98.90%	39.56名
		平成30年度	365日	14,654名	100.36%	40.14名
短期入所	5名	令和元年度	366日	2,036名	111.25%	5.56名
		平成30年度	365日	1,829名	100.21%	5.01名

※短期入所は空床利用を含みます。（空床利用 72 日）

2. 利用者の入退所状況

月 日	入 所		退 所	
	人数	備 考	人数	備 考
	0名	入所者はいませんでした。		
9月19日			1名	グループホーム坂下へ地域移行しました。

3. 利用者支援

(1) 日中活動

支援計画・支援手順書に沿って、本人のニーズ、障害特性を考慮し、日中支援を行いました。小グループを再編成し、創作活動・おやつ作り・農耕作業・軽作業・歩行

活動（ドライブを含む）・リハビリの班に分かれ活動しました。

一日の予定は以下の通りです。

9：00～ 通所施設利用者通勤（送迎車両乗車）

9：30～ 朝礼・ラジオ体操（全員）

10：00～11：30 創作活動（月に2回はおやつ作り） 農耕作業・歩行・リハビリ

13：30～14：50 運動・ダイナミックリズム・自立支援課題・ドライブ

15：00～ スヌーズレン（月・水・金曜日女性、火・木・土曜日男性）

そのほか余暇時間に、園芸、生花を行い、毎週日曜日には喫茶室を運営しました。

(2) 行事（外出・外食）

5月18日	野球観戦（招待行事）ナゴヤドーム	男性利用者 1名
6月17日	リトルワールド	男性利用者 5名
6月21日	里山公園	男性利用者 4名
6月25日	リトルワールド	女性利用者 9名
7月 9日	名古屋港水族館	男性利用者 4名
7月12日	カップ寿司	男性利用者 3名
7月19日	ココ壺番屋	男性利用者 3名
9月 6日	竹島水族館	男性利用者 3名
9月13日	ココ壺番屋	男性利用者 2名
9月20日	マクドナルド	男性利用者 1名
9月26日	びっくりドンキー（夕食）	男性利用者 4名
10月 7日	びっくりドンキー（夕食）	女性利用者 2名
10月 7日	餃子の王将	男性利用者 2名
10月16日	ベビーフェイス	男性利用者 3名
10月18日	東山動物園	男性利用者 3名
10月23日	ココ壺番屋	女性利用者 8名
10月24日	リニア鉄道館	男性利用者 4名
11月 5日	サガミ	男性利用者 4名
11月 8日	自衛隊小牧基地	男性利用者 2名
11月15日	リニア鉄道館	男性利用者 5名
11月20日	モスバーガー	男性利用者 3名
11月21日	名古屋港水族館	女性利用者 12名
12月11日	モスバーガー	男性利用者 3名
12月12日	春日井市役所展望レストラン	女性利用者 9名
12月12日	びっくりドンキー	男性利用者 4名
12月17日	モリコロパーク	男性利用者 2名

1人1人のニーズにこたえる為、少人数で外出支援を行いました。

このほかに、7月花火大会、8月夏祭り、11月ハロウィン、12月 クリスマス会、1月新年会、2月節分会 3月お疲れ様会を荘内で行いました。

4. 健康管理

入院者 3 名（肺膿瘍 1 名、骨折 1 名 腸閉塞 1 名）、捻挫 1 名、骨折 3 名、インフルエンザ罹患 3 名でした。インフルエンザ感染拡大を防止するため、主治医と相談し、罹患していない 7 名にも予防薬の服用をしました。

定期健診・予防接種

5 月 22 日	健康診断	名古屋公衆医学研究所
10 月 2 日	健康診断	名古屋公衆医学研究所
11 月 14 日	インフルエンザ予防接種	田島クリニック

往診等

毎月 1 回	健康相談等	沖医師
	内科医による診察	田島クリニック
	精神科医による診察	あさひが丘ホスピタル
9 月（1 回）	歯科検診	川原歯科医（養和荘）
3 月（1 回）	歯科検診	川原歯科医（養和荘）

5. 給食

隣接する A 型作業所キッチン高森に委託し、栄養面、嗜好、季節感等を考慮した食事の提供を行いました。さらに管理栄養士を配置し、嗜好調査を行い保護者に報告しました。栄養ケアマネジメントを取り入れ、月に一度の給食会議で話し合い、個々人の身体状況に合わせてカロリーの変更、食事形態の見直しを行ってきました。また、嚥下障害の方の食事摂取方法について、何度も話し合いを重ね、ご本人に最適な食事提供方法を検討しました。

6. 入浴

心身のリフレッシュと清潔保持のため、毎日入浴を実施してきました。

7. 環境整備

専門の清掃業者を入れ、尿・便失禁の多い利用者の居室を中心に保清に努めました。また、障害特性からくる器物破損について（扉、水道、床材等）は、その都度業者に連絡し修繕を依頼しました。大きく破損をしたカームダウンルームは、壁にクッションを入れた補強工事を行い、その後カームダウンルームが大きく破損することは無くなりました。器物破損による不具合で、利用者の生活に支障がないよう配慮しました。開所当初、男性棟のカーテンは破損を防ぐために設置していませんでしたが、数名の居室にカーテンを設置しました。

8. 防災・防犯

避難経路マニュアルの見直し、火災・地震・風水害を想定した避難訓練を、利用者の安全の確保、生命の確保を念頭に実施してきました。施設内の B C P 作成を目標に、代表者が外部研修に参加しました。

防犯に対しては、支援員への防犯用の笛の配付、防犯スプレー・防犯ブザーの配置、そ

して人感センサーを利用者玄関、非常口に計7個設置し対応しています。

訓練一覧

4月初旬	通報訓練・施設内消防設備及び消防器具の説明（勤務に合わせ順次）
5月17日	夜間火災想定による避難訓練・消火訓練・通報訓練
6月18日	夜間火災想定による避難訓練・消火訓練・通報訓練
7月16日	夜間火災想定による避難訓練・消火訓練・通報訓練
9月2日	日中 地震から火災想定による避難訓練・消火訓練・通報訓練
10月30日	夜間火災想定による避難訓練・消火訓練・通報訓練
11月22日	夜間火災想定による避難訓練・消火訓練・通報訓練
12月26日	防災教育 防災テスト実施
1月27日	連絡網訓練
2月21日	風水害による避難訓練・通報訓練
3月27日	夜間火災想定による避難訓練・通報訓練（雨天中止）

9. 職員研修

毎月、スタッフ会議の後に、支援や虐待について研修を行いました。研修担当者が議題を持ち寄り、KYT訓練や小グループによる話し合いを行い好評でした。1年間を通して各棟でテーマを決め、その取り組みを実践報告として年度末に発表会を行いました。

法人内のスキルアップ研修に、2名（養和荘、第2養和荘）参加させ、2名（養楽荘、第2養和荘）の支援員を受け入れました。法人内の課題研究では、養楽荘とチームケアについて発表しました。

10. 感染予防

新型コロナウイルス感染予防等、感染防止委員により「持ち込まない・持ち出さない」ことを目標に取り組みました。変化を好まない利用者に対し「いつもと同じ生活」を送りつつ、棟内消毒、アイポッシュの活用など感染予防に力を入れました。

11. 地域交流

毎週日曜日の午前中、どんぐりの森の喫茶室をお借りして、喫茶室の運営をおこないました。喫茶室では利用者2名、支援員1名、ボランティア1名で接客をしており、コーヒーの提供、なかぎりワークスのお菓子、キッチン高森の惣菜も販売しました。

また、毎月第4日曜日にはスヌーズレン棟を予約制で地域の障害のある方に開放しました。

2月中旬より新型コロナウイルスの感染予防として、喫茶室の運営、スヌーズレンの地域開放は中止していますが、喫茶については、はるひ荘内で利用者に向け継続しました。